



能美市読書感想文コンクールの表彰披露が行なわれました。3年生からも3名の入賞がありました。読書感想文コンクールでは、課題図書の一つに「ある晴れた夏の朝」という本がありました。これはアメリカの高校生達が、広島・長崎に落とされた原子爆弾の是非を討論する話です。2年生からの平和学習や修学旅行を通してヒロシマや原爆について学んだ皆さんにも是非読んで、考えてもらいたい作品です。そこで、この本についての感想文を紹介したいと思います。受験勉強の合間に、または受験が終わって一段落ついたら手にとってみて下さい。



～能美郡市読書感想文コンクール入賞作品の紹介～

「原爆」とは何か

3年2組 中村 葵

「原爆は決して落としてはいけないものだった。そして、それは日本人は勿論、アメリカ人も、この地球に住む全人類が1945年8月6日のあの日、あの瞬間思い知った。」そう私は思っていました。そんな中アメリカの高校生8人が原爆の是非を討論するという内容の本「ある晴れた夏の朝」があることを知って、原爆を肯定する人もいるのだと、私は衝撃を受けました。それと同時に、どんな考えを根拠に原爆を肯定しているのか、肯定派の意見を知る必要があると思いました。なぜなら、そうすることで、本当の平和な世界を築けるような気がしたからです。これがこの本「ある晴れた夏の朝」のページをめくるきっかけです。

討論をするのはアメリカの高校生8人で、肯定派と否定派はそれぞれ4人でした。私はこの本を読み進めていくうちに自分も登場人物の一人として否定派の席に座っているような、そんな気がしてきたのです。それほどこの本は私にとって興味深く、改めて平和について考えるきっかけをくれました。

まず、肯定派の意見です。その中でも特に印象的だったのが二つあります。

一つ目は、原爆投下は戦争を一刻でも早く終わらせるためのものであり、必要悪だったという意見です。アメリカの大統領は戦争による犠牲者を減らすために、世界平和を実現するために、原爆の恐ろしさを理解した上で、投下したというのです。しかし、私は原爆投下には戦争を終わらせる効果があったのか疑問に思いました。なぜなら、日本は8月9日のソ連参戦によって降伏する決意をしたのであって、原爆投下は降伏と無関係だったからです。また、肯定派は「アメリカ人の命」しか考えていないと私は思います。実際、アメリカの学校では、「原爆によって、100万人以上のアメ

リカ人の命が救われた」と教えられているそうです。100万人以上のアメリカ兵を救うために14万人の広島の人々と9万人の長崎の人々がやむなく犠牲になった、と。私はこのことを知って、国の立場によって見方が変わり、アメリカは自国を正当化するために、子ども達にそう教えているのだと思いました。

二つ目は、「パールハーバーを忘れるな」です。この言葉はアメリカ人全員が忘れられない言葉だそうです。なぜなら、太平洋戦争は宣戦布告をしなかった日本軍の真珠湾攻撃によって始まったからです。真珠湾攻撃では広島と長崎のように罪もない民間人が大勢犠牲になりました。だから原爆投下は卑怯な日本に対する報復でもあったと、肯定派は主張しました。私は、宣戦布告もせずに真珠湾を攻撃されたら、アメリカも怒るのは当然だと思います。しかし、宣戦布告が遅れたのは、在米日本人大使館員の対応の遅れで、手渡すための努力はギリギリまで続けられていたそうです。私はそのことを知って、そんな原因があったのだと少し驚きました。

次に、否定派の意見です。否定派の意見は原爆は人体実験であったことや、アジア人、日本人に対する人種差別と偏見、アメリカの強さを世界に見せつけることなどが挙げられました。最も否定すべきことは、罪もない人々が原爆という恐ろしい兵器によって苦しんだということです。原爆投下は必要悪では決してなく、許されざる行為でした。どんな理由があろうとも、罪のない人達を殺したことには変わりありません。

では、私達日本人がすべきことは何でしょう。それは、何があっても二度と戦争をしないことです。これは原爆死没者のための慰霊碑に刻まれている「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませぬから」という言葉にもつながります。我々人類は、過ちを、戦争を原爆で犠牲になった人達のためにも、二度と繰り返してはいけません。そして、日本には最初の被爆国として世界平和を訴える義務があります。原爆の恐ろしさを世界へ訴え、戦争がどれだけ憎むべき悪で、醜いものかを伝える必要があります。

私はこの本を読んで、もう一つ気づいたことがあります。それは、原爆を憎み訴えるだけでなく、私達日本人も南京虐殺や真珠湾攻撃での過ちを認め、深く反省しなければならないということです。目には目を、歯には歯を、という考えを持っている限り、人類に平和は訪れません。まずはお互いの過ちを認め、反省し「過ちは二度と繰り返しません。」と誓うことから、平和な世界が築かれると私は今、強く感じています。1945年8月6日の朝、広島の人達が、そして8月9日の朝、長崎の人達が見たのと変わらない「ある晴れた夏の朝」、青い空を見上げながら。



「ある晴れた夏の朝」
偕成社
著：小手鞠るい